

第3回 笠岡市都市・地域総合交通戦略協議会

日時：令和4年3月3日（木）10：00～12：00

場所：笠岡みなと・こばなし

<議事>

1. 開会

2. あいさつ

3. 報告案件（第2回協議会の主な意見等について）

（一同）

・意見なし。

4. 議事

1) 議案1 評価指標・数値目標の設定について

（委員）

- ・施策の方向性“笠岡駅を中心としたにぎわいの創出”は指標①で対応しているが、中心市街地における取組であり、施策に十分対応した内容となっているのか。指標③にも繋がる取組である為、こちらにも線を繋いだらどうか。
- ・道路交通に関する施策もある為、市内の渋滞緩和の指標を設けてはどうか。データとしては、道路交通センサス等が活用できると思う。
- ・指標3については、周辺5地点の交通量調査の地点を具体的に示すべき。
- ・加えて、指標3について人手による計測だけでなく、定点カメラでの画像解析による計測など、デジタルな交通量調査のやり方も検討していただきたい。
- ・“推進体制”について、“公共交通事業者”ではなく、“交通事業者”とした方が良い。

（事務局）

- ・内容について、事務局内で検討し、次回協議会に回答する。

(委員)

- ・施策の方向性“笠岡駅を中心としたにぎわいの創出”について、評価する指標が弱い為、商店街内の店舗数に対する閉鎖している店舗数の比率なども検討してはどうか。
- ・スパイラルアップの図について、“PLAN”が目指す姿の頭にくるよう分かりやすく図を修正いただきたい。

(事務局)

- ・商店街の店舗数については、担当部署にデータを確認した上で検討する。
- ・画像については、修正を行う。

(委員)

- ・施策の方向性“笠岡駅を中心としたにぎわいの創出”の評価に、空き店舗率も追加する場合、空き店舗だけでなく新たに立地した店舗数も計測した方が良い。
- ・また、同施策は外からの来訪者が増えることにも寄与する為、指標④観光客数とも線を結んだ方が良い。
- ・さらに、交通渋滞の緩和等の指標を設けるのであれば、そちらにも線を結んだ方が良い。

(事務局)

- ・データについて、担当部局に確認して次回までに回答する。
- ・指標の考え方についても、整理して回答する。

(委員)

- ・観光客数についてはどのような定義になっているか。例えば、帰省等の移動も含まれるのか。
- ・公共交通の利用者数について、笠岡駅を拠点とした路線バスは、高校生の利用が最も多い。利用者数が高校生の増減に関わり、本来的な評価に繋がらない可能性がある。本来的な目的である路線バスを必要としている高齢者等の地域の方への効果が施策としてきちんと評価できるものの方が良い。

(事務局)

- ・観光客数の定義については、県の観光動態調査の数値を使用している。観光客の定義については、官公庁が策定した観光入込客数に関する共通基準を用いて、施設やイベントに訪れた人数を計算している。詳細については次回協議会までに回答する。
- ・指標②の公共交通等の利用者数については、昨今はコロナ禍の影響により減少傾向で推移している状況である。市では過去に乗降調査を行い、高校生の通勤通学の利用者数が半数程度を占めることが分かっている。

(委員)

- ・バスの利用者には、高校生等の他に移動手段がない利用者の2種類存在していると理解した。今後、路線バス全体の利用者数を増やしていく為には、考え方として半数程度を占める高校生やバスを利用せざるを得ない人の利用を拡大するより、一般利用者等を増やしていくことも視点としてはあると考えている。

(委員)

- ・事務局は、意見を踏まえて修正すること。

(委員)

- ・観光客数の現況値は今年度減少していると思うが、目標値にコロナ禍以前の状況が加味されているか、教えていただきたい。

(事務局)

- ・令和元年度の数値までは、横這いに推移している。令和2年度には97.5万人となっており、コロナウイルスの影響を受けて減少していることが予想されることから、今後も減少傾向であることが想定される。

(委員)

- ・事務局は、修正の際に施策の方向性と指標が合致しているのか、という視点に気を付けていただきたい。例えば、中心市街地の移動環境づくりについての指標が、観光客数だけで良いのか。観光客数は、中心市街地以外の影響を受けることが考えられる為、適切に中心市街地のにぎわいを図る為の評価ができない。事務局としては、指標の計測方法も十分に理解した上で指標を設定すること。
- ・“評価手法”について、5年に1度のPDCAサイクルでは計画の微修正が利かない為、毎年モニタリングを実施して微修正を行いながら、計画を実施した方が良い。毎年の小さなPDCAサイクルと計画見直しの約5年に1回の大きなPDCAサイクルとに分ける必要がある。
- ・その際、5年に1度しか計測できない指標は適切ではない。毎年のモニタリングが実施できる指標とし、計画の狙い通りに進んでいるか評価すべき。コスト面という懸念事項もあるが、計画評価に必要なならば確実に評価できる指標を設けるべき。他の計画の為に最適化されている指標ではなく、本戦略で毎年評価できることを考えた方が良い。

2) その他

(事務局)

- ・第4回協議会では、今回の指摘を踏まえて、文章の表現や指標の内容などを修正し、冊

子として取りまとめたものを提示する予定である。次回協議会の日程は、4月末もしくは5月中旬を予定している。

以上